

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年10月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2875101566		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	ポートピアシルバーホーム		
所在地	神戸市中央区港島中町5丁目2-3 (電話) 078-304-7733		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成21年8月11日	評価確定日	平成21年10月2日

## 【情報提供票より】(平成21年7月28日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 8.5人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	6階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	365 円
	夕食	415 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,140 円	

## (4) 利用者の概要(7月28日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 86歳	最低	78歳	最高	94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人マリナーズ厚生会 神戸海岸病院
---------	---------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは海に囲まれた神戸ポートアイランドの南にあり、複数の大学がある教育ゾーンで、スポーツセンター・ワールド記念ホール等の施設が立ち並び、最寄りの駅から徒歩5分の所にある。6階建ての介護老人保健施設の1階に、1ユニットのポートピアシルバーホームが設置されている。併設の施設には通所リハビリテーション(デイケア)・介護予防通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所がある。医療連携・共同防災訓練・共同行事・法人内研修参加等、法人の持つ多機能性を活かした取り組みが行われている。利用者の自立支援を促し、生活機能動作を高める環境作りを心がけている。
---

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の第三者評価結果を踏まえ改善計画を立て、全職員で話し合い、具体的に業務改善を行い実践に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	管理者が自己評価の意義や役割を職員に伝え、すべての職員が積極的に取り組んだ結果、新鮮な目で見ることができ、課題を設定してそれを目標にしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議では、自己評価や第三者評価の結果を踏まえ、改善課題・ホームの取り組みの現状と今後の取り組み等について話し合っている。地域との交流が進まない状況から、近隣の保育園や幼稚園の散歩コースの中でホームに立ち寄ってもらうなど、外部から来てもらう取り組みを検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	家族交流会や年2回の「しおかぜ」通信には、日々の暮らしを報告し、家族が訪問時生活状況を詳しく伝えている。交流会は率直な意見が気軽に言ってもらえる雰囲気作りにし、また意見箱を置いて苦情や不満等出しやすい工夫をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	ホームが市街地・住宅から遠く、オフィス街の中にあるが、大学が多く、利用者が外食で大学の食堂で食事をしたり、学生と触れ合う機会がある。近くのふれあいセンターでは、お茶をしながらカラオケを地元の人と一緒に楽しみ、交流を深めている。

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の立地条件を考慮し、地域の特性を活かしながら、地域に密着した取り組みを積極的に行う姿勢を目指した独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の大切さを全職員が共に意識し、ミーティング時に復唱している。日々のケアの中で、言葉づかい・尊厳・その人らしい暮らし等振り返る指針になり、十分反映されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に1回近くのふれあいセンターでカラオケを楽しみながら、地域の人と交流を深めている。その交流を通して、特技のある人たちがボランティアとして訪問してくれる。		現在のふれあいセンターなどの交流に加え、学校などの地域の団体機関・組織などに、さらに積極的に働きかけてみてはどうか。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価結果を踏まえ改善計画を立て、全職員で話し合い具体的に業務改善を行い、実践に取り組んでいる。管理者は自己評価の意義や役割を職員に伝え、すべての職員が積極的に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>「運営推進会議設置運営要綱」を作成し、2カ月に1回開催している。評価の改善課題、ホームの活動内容を報告し、かかりつけ医等の参加メンバーから意見・質問・要望を受け、事業所の運営につなげている。構成メンバーに自治会長（民生委員）や近隣の大学より有識者が加わり、多角的な視点から事業所運営に関する意見をもらえる体制が整った。また、会議の欠席者には会議録を送付して、議事内容を伝えるとともに、次回への出席を促している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業運営上、市担当者と改正された制度や法令、または問題や疑問点があると、市の担当課と相談するなど連携が図られている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な家族交流会時には、利用者の日々の暮らしと実態を伝え、金銭出納帳、健康状態については個別に面会時、電話にてきめ細かく知らせている。また、年2回のホーム便り「しおかぜ」通信を郵送し、近況を報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族交流会を通して率直な意見が気軽に言ってもらえる雰囲気を作り、また意見箱をエントランスホールに設置している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>「馴染みの関係を築きながら」を理念に掲げていることから、異動は極力しないように心がけている。やむを得ず異動や離職があった場合は、ベテランの職員を配置するなど、利用者への影響を防ぐ配慮をしている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に基づき、年間研修を4回予定し、職員の質・技術向上のため、認知症介護実践者研修・実践リーダー研修・認知症対応型サービス管理者研修を職員の個々のレベルに応じて順次受講している。また、基本に戻るため、認知症ケアの勉強会をグループホーム独自で実施し、研修記録は共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームとして同業者との交流はないが、特定の職員が地域の同業者と交流を持ち、研修会に参加したり、訪問して情報を交換したりしている。		特定の職員が行っている同業者との交流をきっかけにするなどして、ホームとして地域の同業者と交流する機会を持ち、サービスの質向上に取り組むことが望まれる。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用契約前に1週間の体験入居を行い、事業所の雰囲気徐々に馴染めるよう工夫し、利用者には安心と納得の確保ができるよう取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は同じ立場に立って、根本にある思い・苦しみ・不安・哀しみを共感し、日々の暮らしの中で支援している。また、得意分野で力を発揮してもらい、利用者から指導を受けたり、尊敬の心を忘れず共に学び、支えあう関係を築いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>担当者を決めて、利用者との関わりの中で一人ひとりを観察し、思いや希望を日々の会話の中で把握している。また、利用者の行動や表情から汲み取るようにして意向を察知している。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成にあたって、本人や家族の意見・希望を反映させ、ホーム関係者の意見を含め課題となったことをスタッフ全員で検討会議で話し合っている。自分らしく暮らし続けたいという本人・家族の願いを実現するため、センター方式を取り入れる予定にしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3か月に1回行っている。昨年度の評価でモニタリングについて指摘を受け、モニタリングの項目も増やした。利用者・家族・必要な関係者を含めた現状に即した介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院送迎は家族ができない時、職員が実施している。転倒して車イスになった利用者には、理学療法士に体力テスト・リハビリの内容を組み込んでもらい、必要な支援を提供している。また、転倒予防体操を通所リハビリの専門職（理学療法士）と協同し、独自の体力テストを実施し、利用者の体力にあった転倒予防体操を作成し、毎日の生活に取り入れている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医ならびに、協力病院の医師とも日常からの協力体制を密にしており、適切な医療支援体制を構築している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、すべての利用者・家族にホームの対応とケアの指針を説明し、終末期の支援について、本人にとってどうあったら良いのか家族と繰り返し話し合い、信頼関係を構築した上で、病院かホームか選択してもらっている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者にかける言葉も一人ひとり尊重した声かけで対応し、トイレ誘導・入浴等の介助の際には利用者の誇りを傷つけないか確認している。また、記録等の個人情報は事務所で保管し、プライバシー確保に努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の生活の流れの中で、利用者が主体となって今日はどう過ごしたいか、体調に合わせ意向や要望に配慮し、希望にそったその人らしい暮らしを支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の老人保健施設と同じ食事が毎食届き、利用者が盛り付けや配膳を行っている。月に2回、利用者の希望する献立の買い物・調理・後片付けと一連の流れを職員と共に取り組み、また定期的な外食は利用者同士出かけ楽しんでいる。職員は手作りのランチョンマットで楽しく食事ができる雰囲気作りに努めている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、入浴日や時間帯は決めているが、利用者の要望に応じて入浴できるよう体調に配慮しながら支援している。入浴を拒む人には、声かけや本人が入浴したくなる対応の仕方についてチームで取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で洗濯物やおしぼりたたみや新聞を取りに行く人等、掃除は当番制で行い、役割のある暮らしになっている。個々の得意分野を活かしてレクリエーションに参加したり、また手先の器用な方が多く、人形・クッション・壁掛けカレンダー等を作り、作品を老人保健施設ロビーに飾り、楽しみと活力を引き出す支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前に公園があり、身近に散歩できる環境に恵まれ、戸外に出る機会がある。買い物を希望する利用者には近くのスーパーまで送迎し、集会や行事の際には、バスで外出支援を行っている。		利用者の希望にそった一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組むことが期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入口は自動で出入りできるが、職員の見守りが少ない時には、安全のため電源を落とし、手動による操作に切り替えている。		日中の全ての時間帯についての玄関に鍵をかけないケアについて取り組む検討と実施が望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防災マニュアルは作成している。年2回法人事業所と合同で防災避難訓練を実施している。</p>		<p>夜間の地域人口が少ない施設近隣の地域特性を踏まえ、災害時に施設・法人以外の協力体制を構築する工夫を講じてみてはどうか。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々の食事や水分摂取量を毎日チェックし、不足分が分かると好みの食べ物や飲み物で補っている。併設老人保健施設の管理栄養士に栄養のバランス等専門的な観点からアドバイスを受けている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が多くの時間を過ごす共用空間は仕切りもなく、広々していて開放的な居場所になっている。玄関やカウンターには季節を感じる花や金魚鉢が置かれ、フロアーの飾り付けはすべて利用者の手作りで、安心して暮らせる工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は利用者が快適に過ごせる広さで、家具や馴染みのある道具が自由に持ち込まれ、利用者の好きな作品を壁に貼ったり、置いたりして居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>		

 は、重点項目。